

平成28年度(2016年度)

管理事業名	道路事業			総合計画の体系	第6章 第2節	安全で魅力的なまちづくり 暮らしや都市活動を支える基盤づくり ほか	
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 8	土木費	(項) 5	都市計画費	(目) 12	南吹田駅前線道路新設費
部局名	土木部	予算執行所属		地域整備推進室 ほか			
予算大事業名	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名 (款)土木費(項)道路橋梁費(目)道路維持費 路線道路補修事業 (款)土木費(項)道路橋梁費(目)道路維持費 道路経常管理事業 (款)土木費(項)都市計画費(目)岸部中千里丘線道路新設費 都市計画道路岸部中千里丘線道路新設事業 ほか						
<p>事業の目的と概要</p> <p>道路事業では、都市計画道路の整備、市道の維持管理及び修繕等を行っています。 都市計画道路の整備及び市道の適正管理等により道路機能の向上を図り、誰もが安全で快適に利用できる道路環境の整備を目指します。</p> <p>主な業務内容は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画道路の整備に係る事務 都市計画道路南吹田駅前線、千里山佐井寺線、岸部中千里丘線の新設事業を実施しています。</li> <li>・道路維持管理に係る事務 市道の清掃、エレベーター等道路付属施設の維持点検業務等を実施しています。</li> <li>・道路の補修に係る事務 市道や橋梁の劣化等損傷箇所について、点検や、結果等に基づく修繕を実施しています。</li> </ul>							

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成26年度	平成27年度	平成28年度	成果指標の定義
舗装更新面積	m <sup>2</sup>	17,669	29,491	31,224	各年度に施工した、舗装更新面積の合計
都市計画道路南吹田駅前線 事業進捗率	%	25.5	39.8	57.3	都市計画道路南吹田駅前線の事業費総額における各年度の事業費累計の割合
成果の 説明	<p>供用性能が低下した道路の舗装を更新しました。道路ストック総点検事業で実施した、路面性状調査により把握した劣化損傷状態等により、更新時期を決定し、優先順位の高い箇所から順に更新しています。平成28年度からは、平成26年度に実施した路面性状調査結果に加えて、平成27年度に実施した路面性状調査結果に基づく更新を実施しているため、更新面積が増加しています。</p> <p>都市計画道路南吹田駅前線の事業進捗は、平成28年度末で57.3%で、平成30年度末完成予定です。</p>				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	平成26年度	平成27年度 A	平成28年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	367,899	369,824	368,964	△860
国庫支出金(経常費用充当)	100,000	37,356	66,174	28,818
府支出金(経常費用充当)	5,670	6,642	6,885	243
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	300,363	811,730	313,314	△498,416
経常収入小計(a)	773,932	1,225,552	755,337	△470,215
給与関係費	470,961	473,893	493,402	19,510
物件費	448,508	718,769	2,423,919	1,705,150
維持補修費	776,716	790,330	668,615	△121,715
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	9,114	112,265	54,458	△57,808
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	2,159,478	2,181,716	2,215,262	33,546
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	34,093	34,325	36,923	2,598
退職手当引当金繰入額	29,877	20,990	52,587	31,597
支払利息	17,031	15,636	13,498	△2,139
その他	299	79	204	125
経常費用小計(b)	3,946,076	4,348,004	5,958,869	1,610,865
経常収支差額(a)-(b)=(c)	△3,172,144	△3,122,452	△5,203,532	△2,081,079
特別収入	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	2,286,242	3,755,176	1,444,346	△2,310,830
特別収入小計(d)	2,286,242	3,755,176	1,444,346	△2,310,830
特別支出	-	-	-	-
固定資産除売却損	0	-	-	-
その他	-	-	-	-
特別支出小計(e)	0	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	2,286,242	3,755,176	1,444,346	△2,310,830
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	△885,902	632,724	△3,759,185	△4,391,909
一般財源充当額	1,156,759	2,255,625	2,196,810	△58,815
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	270,857	2,888,349	△1,562,376	△4,450,724

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
使用料及び手数料	道路占用料 368,121千円
経常収入その他	受託事業収入 248,402千円ほか なお、前年度から減少した理由は、平成27年度に資産計上もれ、減価償却仕訳訂正及び土地の普通財産所管換え分 458,790千円を計上したため
物件費	都市計画道路南吹田駅前線立体交差事業の委託料 1,617,928千円ほか
維持補修費	道路等施設補修ほか工事請負費 663,691千円 なお、前年度に比して減少した理由は、資産価値を向上させる工事について資産計上したため
特別収入その他	都市計画道路南吹田駅前線立体交差事業の国庫支出金 361,350千円、受贈財産評価収入 907,679千円ほか

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成26年度	平成27年度 A	平成28年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	773,932	766,762	755,040	△11,721
行政サービス活動支出	1,795,870	2,190,980	3,727,833	1,536,853
行政サービス活動収支差額	△1,021,938	△1,424,219	△2,972,793	△1,548,574
投資活動収入	1,556,860	963,183	1,595,667	632,483
投資活動支出	1,996,558	2,300,851	1,081,726	△1,219,125
投資活動収支差額	△439,698	△1,337,668	513,940	1,851,608
財務活動収入	456,500	648,200	404,400	△243,800
財務活動支出	151,623	141,938	142,357	419
財務活動収支差額	304,877	506,262	262,043	△244,219
収支差額合計	△1,156,759	△2,255,625	△2,196,810	58,815
一般財源充当額	1,156,759	2,255,625	2,196,810	△58,815
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	(行政サービス活動支出) 南吹田架道橋新設工事委託料ほか (投資活動収入) 都市計画施設整備基金繰入金ほか
----------	--

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
市民1人あたりのコスト	平成26年度	362,899 人	10,874 円	市民1人あたり16,126円のコストがかかっています。 平成29年3月31日現在の吹田市人口で算出しています。
	平成27年度	367,510 人	11,831 円	
	平成28年度	369,522 人	16,126 円	
市道1mあたりのコスト	平成26年度	528,599 m	8,465 円	市道1mあたり11,173円のコストがかかっています。 平成28年4月1日調製の道路延長で算出しています。
	平成27年度	530,518 m	8,196 円	
	平成28年度	533,338 m	11,173 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成27年度末 A	平成28年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成27年度末 A	平成28年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	174,461	159,864	△14,597
未収金	-	-	-	地方債	139,985	120,566	△19,419
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	34,325	36,923	2,598
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	151	2,374	2,223
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
事業用資産	-	-	-	固定負債	2,390,667	2,694,186	303,519
有形固定資産	10,387,651	11,116,223	728,572	地方債	1,984,213	2,268,047	283,834
土地	3,006,453	3,264,278	257,825	長期借入金	-	-	-
建物・工作物	2,811,461	2,731,081	△80,380	退職手当引当金	406,158	419,333	13,175
リース資産	441	9,174	8,733	リース債務	296	6,806	6,510
建設仮勘定	4,569,296	5,111,690	542,394	その他固定負債	-	-	-
無形固定資産	965	1,264	298	負債の部合計	2,565,128	2,854,049	288,921
固定資産	-	-	-	純資産	813,967,993	814,083,047	115,053
有形固定資産	806,144,380	805,819,609	△324,771				
土地	763,494,069	764,245,420	751,351	純資産の部合計	813,967,993	814,083,047	115,053
建物・工作物	42,641,191	41,572,577	△1,068,615	負債及び純資産の部合計	816,533,121	816,937,096	403,975
建設仮勘定	9,120	1,613	△7,507				
重要物品	125	0	△125				
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	816,533,121	816,937,096	403,975				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

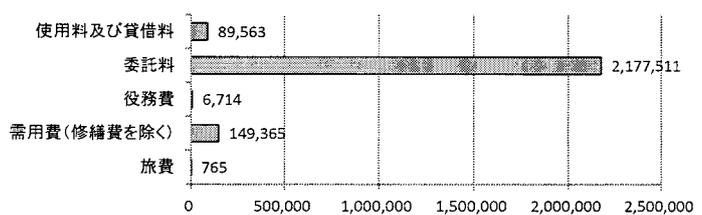
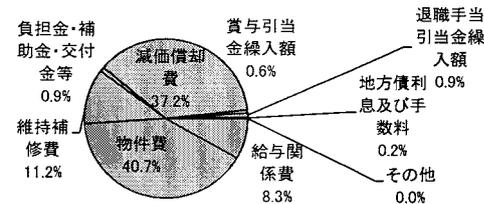
事業従事人数	常勤・再任用	非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	年間従事日数	実人数	
	60人	0人	3,930日	0人	582,913
給与関係費等	543,679千円	0千円	39,234千円	0千円	
内、時間外勤務手当	25,674千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由
事業用資産 土地	都市計画道路岸部中千里丘線の事業用地取得費用 95,377千円ほか
事業用資産 建設仮勘定	都市計画道路南吹田駅前線立体交差事業の工事請負費 241,541千円ほか
インフラ資産 土地	道路用地の帰属等733,431千円及び所管換え17,920千円等による増
インフラ資産 工作物	所管替え及び改良工事等による1,063,426千円の増及び減価償却による2,132,041千円の減により差引1,068,615千円の減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

市道路線の延長	533,338m
取得年月日	平成28年4月1日調製
建物・工作物の取得価額	116,355,463千円
建物・工作物の減価償却累計額	72,051,806千円
利用料金収入	368,121千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度			差 B-A
	平成26年度	平成27年度 A	平成28年度 B	
施設維持補修費比率	0.7	0.7	0.6	△0.1
施設老朽化比率	59.6	60.6	61.9	1.3
受益者負担比率	9.3	8.5	6.2	△2.3
徴収不能引当率	-	-	-	-
一般財源充当比率	29.3	48.7	44.4	△4.3
経常費用対公共資産比率	3.5	3.8	5.1	1.3

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は53.9%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

経常費用の主なものにつきましては、減価償却費が2,215,262千円(37%)、維持補修費が668,615千円(11%)、物件費が2,423,919千円(40%)、給与関係費が493,402千円(8%)等となっています。物件費の内訳は、都市計画道路南吹田駅前線立体交差事業の委託料1,617,928千円のほか、道路施設の維持管理に係る委託料525,430千円及び道路施設光熱水費を含む需用費149,365千円が主な支出です。また、維持補修費は、道路等施設の補修工事費663,691千円、道路等施設補修原材料費1,861千円が主な支出です。

なお、資産(建物・工作物)が減価償却により減少しました。既存施設の老朽化比率は61.9%で、前年度から1.3ポイント進行しました。施設維持補修費比率は、前年度より0.1ポイント下回りました。比率が下回った理由は、建物・工作物の取得価額が上昇しましたが、資産価値の向上を伴う工事費について資産に計上することとしたため、維持補修費が減少したためです。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

道路事業は、多数のインフラ施設を保有しているため、経常的な維持管理経費に加え、老朽化が進む施設の将来的な維持補修費の確保が必要です。しかしながら、利用者の規模に応じたサービス内容や利用料金を変更できるような一般的な便利施設とは違い、不特定多数の方が無料で利用できる施設であることから、一般財源に依存せざるを得ない特徴を持つ事業です。

市民の安心安全を守るため、管理瑕疵事故のリスクを最小限に抑える責務がありますが、老朽化と相似関係と想定しうる減価償却費に見合う維持補修費の執行は出来ておらず、昨年に比して施設老朽化比率が進行する一方で施設維持補修費比率は横ばいの結果となりました。この結果は、事故発生リスクが増加したことを示しており、今後の予算執行において改善を図らなければならない重要な事項の一つであると認識しています。

また、当事業では都市計画道路の整備工事を実施しています。事業の進捗状況は建設仮勘定の増加により示されます。この数字は、将来的にインフラ資産が増加すること、また、それに見合う維持補修費を将来的に確保していく必要があることも示しています。さらに、資産登録と同時に供用開始となることから、維持管理を伴うため物件費が増大することも示しています。これら支出が見込まれる一方、道路占用料の収入を見込んでいますが、支出の伸びを上回るものではないと考えており、財源の確保が課題です。市民の安心安全を守るのと同時に、将来世代への負担が先送りされることのないよう、市債発行に頼ることなく事業を実施していく必要があります。これまでに実施した道路性状等の点検及び調査結果に基づき、計画的な予防保全型管理を行い、事業費の平準化を図りながら、適切な時期に適切な維持補修を実施していく予定です。

その他、道路周辺のみどり豊かな環境づくりも重要事項だと考えており、街路樹の剪定等、これらにかかる経費である物件費の確保も必須です。物件費削減は、吹田市全体のブランドイメージの低下につながります。維持補修費に限らず、物件費の適切な執行及び予算確保も本事業における課題の一つです。上記のとおり、当事業は一般財源に依存している事業ですが、国庫補助金等、他の財源についても確保できるよう、情報収集に努めることが必要であると考えています。